岡山消費者動向分析

意識調査から読み解くビジネスのヒント

Vol.56
新型コロナウイルス感染症拡大による仕事に対する意識の変化

働くこととは

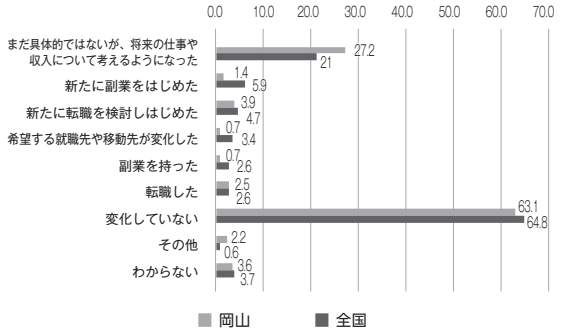
経営学に大きな影響を及ぼしたマズローのニーズのヒエラルキー理論では、一番プリミティブな状態は「生理的ニーズ」であり、「腹減った」「喉乾いた」などがそれに該当する。その次の段階のニーズが「安全のニーズ」であり、「腹が満たされれば」「何とか家族が無事に安心・安全で居たい」という段階になる。その次のニーズは「社会的ニーズ」となり、周りの人たちから認めてほしいという欲求になる。次のニーズは「承認の欲求」であり、「名声を求めたり」、「他人から尊敬されたい」というニーズになる。最後の段階が「自己実現のニーズ」であり、この段階になると自分自身で目的を定めそれを実現する段階に至る。言うまでもなくこの最後の段階に至る人はそれほど多くはない。

では「人は何のために働くのか」？新型コロナウイルス感染症の拡大により、就業者の仕事に対する意識が少しずつ変化しているようである。今回はポストコロナを見据え「働くこと」についての岡山と全国の意識の違いについての調査である。

将来の仕事や収入への意識の変化

新型コロナウイルス感染症の拡大以前と現在で、仕事に対する取り組みや意識の変化で多かったのは、「まだ具体的ではないが、将来の仕事や収入について考えるようになった」岡山21%、全国27.2%。将来の仕事や収入について意識するようになった割合は、岡山に比べて全国が6.2ポイント高い結果となっている。

新型コロナウイルス感染症の拡大以前と比べた仕事に対する取り組みや意識の変化（複数回答）



ワークライフバランスの見直し

新型コロナウイルス感染症の拡大以前と現在で、仕事に対する取り組みや意識の変化があったとする理由は、「感染症を機会に『仕事と生活のどちらを重視したいか』という意識が変化したから」が岡山では最も多く33.7%、全国37.5%であった。

次いで「感染症の影響下において収入が減少したから」で、岡山28.1%、全国41.5%。収入の減少は全国の方が岡山より13ポイント以上高い結果となった。岡山は逆にそれほど影響を受けなかったということであろう。

副業（複業）の実施状況は岡山9.7%、全国11.6%。「副業（複業）に関心があるが行なっていない」は岡山49.5%、全国52.2%。約半数の人たちが副業には関心があるが、まだ何も行っていない状態である。

「副業（複業）に関心があるが行なっていない」理由としてあげられるのは、「本業の勤務先で副業（複業）が許されていないため」がもっとも多く岡山43.5%、全国39.3%。次いで「適当な副業（複業）が見つからない」で、岡山38.4%、全国38.6%であった。

勤務先で「副業（複業）が許可されている」のは、岡山20.4%、全国28.3%で、全国の方が7.9ポイント高い結果となった。反対に「副業（複業）が禁止されている」（「禁止されている」+「例外的に許可されている（原則禁止）」）割合は岡山53%、全国47.1%であった。岡山の方が5.9ポイント高い結果となり、岡山の方が全国に比べて副業（複業）を行う環境は厳しいことがうかがえる。

勤務先が副業（複業）を許可しない理由は、「生産性や売り上げが落ちると考えているから」が最も多く、岡山20.9%、全国31.9%。次いで「利益相反や情報漏洩を懸念しているから」で、岡山20.3%、全国24.1%となっている。

労働時間の変化

新型コロナウイルス感染症の拡大以前と現在で労働時間の変化を見ると、「大幅に減少（51%以上減少）」したのは、岡山3.4%、全国12%。岡山の方が全国に比べて大幅な減少は少ない。「減少（21%～50%）」+「やや減少（6～20%減少）」まで合わせた減少の割合は、岡山23%、全国30.5%となり、全国の方が減少幅は7.5ポイント高くなっている。コロナの影響を岡山はそれほど受けなかったということであろう。

いずれにしてもポストコロナに向けて岡山の企業もあるべきワークライフバランスや副業（複業）への対応などが迫られている。よい機会なので生産性を上げながらドラスティックに変化させてほしい。

調査対象：岡山279件、全国6,653件
調査方法：インターネット調査
調査期間：岡山 2021.5.20～5.26、
全国 2020.12.11～12.17
調査機関：岡山情報文化研究所、内閣府

※岡山の生活者をモニターとした岡山情報文化研究所独自のインターネット調査パネル「ビンサイト」を活用（URL http://vinsight.jp/）

岡山SME研究所、㈳岡山情報文化研究所、VISION岡山共同企画